

令和5年度

自己評価・学校関係者評価報告書

自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日

学校法人臼井学園
臼井幼稚園

1. 本園の教育目標

- 1) 楽しいから、好き
興味関心を第一に考えた保育。
「やってみたい」という意欲を育てる
- 2) 指示をしない保育を目指す
自ら何をしたいのか、何をしなければならないのか、考えて行動できる子どもに育てる。
- 3) インクルーシブな教育
自分以外の存在に気付き、思いやりをもって接することができる子どもになる。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- 1) 満三歳児からの保育の充実
- 2) 教員研修の充実
- 3) 安全管理の再点検

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	項目	取り組み状況と評価
1)	満三歳児保育の充実	満三歳児の社会性の向上が認められるためか、満三歳児クラス（さくら組）への入園希望が増え、充実したクラス運営ができています。年少への進級した時の、クラスの落ち着きに変化がみられるようになった。
2)	特別に支援の必要なお子さんのサポートを充実させる	園内研修と、情報交換、個別指導計画を作成、1年単位で成長を明文化をすることで、個々の子どもにとって最良のサポート方法を見つけ、実践できた。
3)	定期的、計画的な研修の実施により教職員の資質向上	各学年でのカリキュラム別の研修を継続して行なっている。 夏休みの園外研修の継続。
4)	家庭のある教員達の働き方の見直し	子育て中の教員達が働きやすいよう、参観や病気の時に柔軟に対応できるよう体制を整えた。
5)	事故防止のため安全管理の在り方を再点検する	園庭遊具の点検 園内、教室内、玩具類の安全点検 定期的に行なうことで怪我を防ぐことができた。

4. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
急激な少子化、保護者ニーズの多様化、ICTの普及、労働意識の変化など幼稚園を取り巻く社会状況が変化しつつある	社会の変化はあるけれど、子どもの育ちを健全に推進していけるよう教職員間で協議する。 教員のモチベーションを高められるよう、コミュニケーションをより密にしたり、風通しのよい職場環境にする。
園の方針、教育課程の実践にあたり教員共通理解を図る。	日頃より教職員が相互に意見交換をし、保護者への対応、カリキュラムの実施について差が生じないように努める。
保護者との良好なコミュニケーションを継続する。	気になる園児の保護者と早めに、小まめに、個別に懇談の場を設けることで、園内での園児の様子を伝え、保護者の不安を解消したり受け止めたりしていく。
労務管理	なるべく早く帰宅するよう、教職員全体で協力する。

5. 学校関係者及び保護者からの評価

出生率がの低さ、少子化の影響は免れないものの、模索しながらだった満三歳児の保育が安定定着してきて、年少のクラスの落ち着きに効果が出ていることが感じられる。

普通の幼稚園よりも、特別支援のお子さんが多い印象だが、サポートする教職員が多く、楽しく保育できている。クラスの友達がさりげなく優しく手伝ってくれる、そういう気持ちが育っていることが素晴らしい。

特別支援の子ども達を受け入れる体制を見習うべきである。

東京都東村山市 秋津こども園 園長 小島 聖
埼玉県春日部市 庄和こぼと幼稚園 園長 中村美智代
千葉敬愛短期大学 教授 大野 雄子

令和6年3月

6. 財務状況

公認会計士の監査において、当法人は適正に運営されていると認められている。